

仕事

製陶所や商社が自社で生産できない量や苦手分野の生産などを、得意とする事業者分配到することで、新たな展開が生まれる。

人

分業体制で培ってきた高い技術を共有することで、人と人とのつながりが生まれ、新商品の開発や技術力を生かしたビジネス展開ができる。

技

窯業技術を学びたい人、技術を残したい人をつなぐことで、廃業などで途絶えてしまう技を未来につなぎ、新しい技術が生まれる。

特集

窯業界の新しい関係
美濃焼「ツナグ」データバンク

「やきもの生産日本一」

土岐市はどんなまちですか？と聞かれた時、「やきもの生産日本一」という言葉が思い浮かぶ方も多いのではないだろうか。日本一と言われるようになった背景には、明治から昭和にかけて美濃焼に求められたものが「美しさ」から「使いやすい」に変化したことがあげられます。

使いやすいを求め、扱いやすい磁器の技術開発が進められるとともに、低コストで大量生産を実現させるため、地域で生産するものを分ける技術の細分化や作業工程による分業制度が導入され、窯業は土岐市の産業として発展してきました。

しかし、少子高齢化による後継者不足や原材料価格の高騰などから事業者が減少し、美濃焼業界のバランスが保てなくなっています。今回の特集は、美濃焼業界の可能性を維持し、未来へ継承するために始まった取り組み、美濃焼「ツナグ」データバンクを紹介します。

技の伝承

事業者がもつ技術の内容など、情報をデータバンクに登録し共有することで、それぞれの事業者で不足している技術をつなぎます。



いこみ講師
塚本 昇蔵さん

私がいこみ事業者であった頃、完全な分業制で美濃焼が作られていました。消費者の声が私たちに届くことはほとんどなく、依頼があったものを作って売る（卸す）という時代でした。いこみの性質上、機械を購入するよりも手作業で行った方が費用面も含め良く、経験で得た知恵と技術で仕事をしてきました。一線を退いた今、自分の知識と経験を伝えることで、これからの時代に合った取り組みを考え、新しい形を創っていただけたら嬉しいのです。

技 technique

× 人 person

いこみの事業所が少なくなり、外注することが難しくなっている中、いこみを自社でと考える事業者の声を受け、技術者の協力のもと「いこみ技術講習会」を行いました。



(株)山功高木製陶
高木 真弓さん

私たちメーカーは他の事業者の状況をあまり知ることなく従事してきました。「いこみ」を受けてもらえる事業所が減った今、いこみの技術はもちろん、事業者間の連携の必要性を感じています。「ツナグ」がこれまで閉ざしていた事業者間の交流の場となり、業界全体で美濃焼を未来につないでいけたらと思っています。

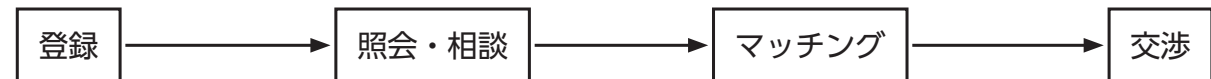
マッチング

自社の得意なことを紹介し、新たな仕事につなげたい事業者と仕事を受けて欲しいなどの事業者をつなぎ、パートナーづくりの土台を提供します。

仕事 business

× 人 person

令和5年4月からデータバンクの運用を始めました。2月1日現在、120社の登録があり、15の事業者がマッチングを利用しました。



社名、所在地、業務内容などを登録。

課題など他社と協力して解決したい場合、陶磁器試験場に相談。
※登録していない事業者も利用できます。

陶磁器試験場でデータバンクから相談内容に合う事業者を紹介。

相談者と紹介された事業者間で交渉する。



事業者の皆さまへ

陶磁器試験場では、窯業の業界全体で、ものづくりを進められるような仕組みとして美濃焼「ツナグ」データバンク事業を行っています。事業者の皆さんで協力し、事業に関する課題や問題などを業界全体で共有、解決していきたく思います。多くの事業者の皆さんの登録をお願いします。詳しくは市ホームページ（HP1006696）に掲載しています。 陶磁器試験場(☎59-8312)

美濃焼が私たちの手に届くまで



作業工程を分業制とすることで生産量日本一となった土岐市ですが、後継者不足や燃料や原材料の高騰により2003年に390社あった窯屋（組合に加入している）も2023年には約半分の207社となりました。

窯業界でとりわけ深刻なのが“いこみ事業者の減少”です。いこみは経験をもとにしたノウハウや技術が必要なうえ、価格競争が生まれにくい構造で、技術が継承されないまま廃業されるケースが増えているのが現状です。

激減

※「いこみ」石膏型に泥状の粘土を流し込んで成形する技法のひとつ。粘土が乾いたら型から外す。



陶磁器試験場
白頭 研究員

美濃焼の生産には、どの工程も欠かすことができません。土岐市の産業「美濃焼」を未来へ継承するため、「仕事、人技」をつないでいきたいと思えます。

事業者の減少、それをまとめる組合の縮小や解散により、事業者同士をつなぐ場所が少なくなり、新たな事業を始める事業者の方から「どこに問い合わせたら良いのか」「いこみ業者を紹介してほしい」などの声が、陶磁器試験場に寄せられていました。

陶磁器業界を継続させる仕組みをつくれないう。私たちは仲間と考え、データバンク事業を始めました。

事業者からの問い合わせで大半を占めていたのは「いこみ」に関するものでした。しかし、いこみ事業者は家族経営など小規模であることが多く、情報がほとんどありませんでした。そのため、現場を自分たちが見て、聞くことから始めました。それは私たちが考えていた状況より、かなり厳しいものでした。しかし、事業者の方が抱えている課題や思いを直接伺うことで、私たちにできることは何かを考えることができました。

美濃焼の生産には、どの工程も欠かすことができません。土岐市の産業「美濃焼」を未来へ継承するため、「仕事、人技」をつないでいきたいと思えます。

美濃焼産業を
未来へつなぐために